



大型種に分類される大賀ハス。約2000年ものあいだ、交配されずに種子が残っていたところに価値があります。



平池公園

東古瀬

加東市東古瀬453-1



大賀ハスは、6月から8月の早朝に花を開きます。この時期になると、毎年多くの方が大賀ハスを見ようと、平池公園を訪れます。

大賀ハスは、3〜4日程度で花びらを散らしますが、この間に、最初は濃いピンク色であった花びらが、徐々に白色になり、日々移りゆく趣を見せてくれます。

約2000年前の姿を今にとどめる大賀ハス。時代を経ても、太古の人々も見ていた大賀ハスの美しさは、私たちを魅了し続けています。

平池公園に息づく太古の花

取材・撮影/秘書室 石倉一樹

平池公園では、約2000年の眠りから目覚めた「大賀ハス」が、間もなく見ごろを迎えます。

この大賀ハスは、昭和26年に千葉県にある検見川厚生農場の落合遺跡から出土した3粒の種子のうち、1粒が発芽、開花したものです。同じく落合遺跡から出土した丸木舟の破片を放射性炭素年代測定にかけたところ、約2000年前のものとして推定されたことから、この種子も同年代のものと考えられています。

小さな種子から芽吹いた太古のロマンをぜひ、平池公園で体感されてみてはいかがでしょうか。

